



学校だより

No. 1

埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園
令和4年4月12日



『子を想う親の心』、投げかける言葉の影響を 忘れない

校長 荒井 宏昌

本校に戻って校長2年目、校長職として11年目となりました。引き続き、今年度もどうぞよろしくお申し上げます。さて、今年度もまだまだ続くコロナ禍でのスタートとなりました。幸い、まん延防止等重点措置が解除となってコロナ禍以前の活動が戻りつつありますが、リバウンド防止にも取り組むように県からは指示されています。このような状況下で、今年度も、幼児児童生徒の安心・安全を最優先にしつつ、創意工夫により有意義な教育活動が展開できるよう努めてまいります。

新しい学年が始まり、学校には、幼児児童生徒の明るい笑顔と活気が戻ってきました。令和4年度は、在校生の進級とともに、義務教育段階である新小学部1年生に11名、新中学部1年生に8名が4月1日に入学となり、入学式は11日に挙行できました。さらに、同11日に新高等部本科1年生に10名、新専攻科1年生に1名の入学を許可し、本日12日には新幼稚部1年生に7名の入学を許可しました。合わせると、4月12日現在で、転入した子5名と合わせて、幼稚部27名、小学部62名、中学部29名、高等部本科44名、高等部専攻科7名で幼児児童生徒計は169名の在籍となります。教職員については、掲載のとおり年度当初の人事異動がありました。新たな体制となった教職員は、新年度の準備を進めてくるとともに、安心・安全な学校生活を送らせることができるように、全体での会議や不可欠な研修を重ねてまいりました。

今年度の学校経営方針については、これまでの方針に即して、本校が重ねてきた実践をさらに積み上げて教育活動の充実を図り、「自分の良さを伸ばし、一人一人が輝く」という学校教育目標を達成すべく取り組んでまいります。また、『自ら学びを深め、たくましく生きる力を育む学校』という学校の姿を目指していきます。これらのことを4月1日に全職員で確認しました。

学校経営方針に加え、わたくしが掲げる学校経営のスローガンとして、引き続き『見えて、聞こえて、風通しがいい』を心がけた『網戸張りの学校経営』に努めてまいります。

わたくしが学校を経営するにあたり、一番大切にしたいことは、『子を想う親の心』を忘れないということです。我が子を想う保護者の心にはとうてい及ばないのですが、保護者の皆様から大切なお子様を学校でお預かりする以上は、『子を想う親の心』をいつでも忘れずに過ごし、保護者の皆様のお子様への想いに寄り添っていただけるように全職員で心一つにして歩んでまいります。また、教員が幼児児童生徒にかける言葉が与える影響力は多大なものがあります。かける言葉によって、背中を後押しできたり、意欲をもって勉強や部活動に前向きに取り組んだりできます。その逆に、かける言葉によっては、やる気をなくしてしまったり、学校に行きたくない気持ちにさせたりする可能性もあります。そのような言葉の影響を忘れずに、かける言葉が一人一人の子どもにどのように届くのか、その子がどのように受け取るのか、その子の成長にどのように影響するのかをよく考え、一つ一つの言葉を選んでいかなければなりません。この点についても、全職員に対して話したところです。

今年度も本校教育活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。